

公共図書館における情報リテラシー支援を創る，拓く，実行する

石川敬史（十文字学園女子大学）

■レジュメ目次

【講義1】何のための情報リテラシー支援？

【講義2】公共図書館における情報リテラシー支援の可能性

【グループワークの手引き】ともに考え，ともに拓き，ともに創る実践

【グループワーク1，2，3】

【発表】

【振り返り】

【おわりに】

【講義 1】 何のための情報リテラシー支援??

1. 研修を始めるにあたり

(1) 今日の目標

- ①【創る】 Why
- ②【拓く】 What
- ③【実行する】 How

(2) 「掟」(オキテ)

2. 突然ですが質問です

3. 情報リテラシー教育の定義, 図書館利用教育の定義を考える

(1) 『図書館情報学用語辞典』丸善 (第4版)

①「情報リテラシー」

「さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力。具体的には、以下の能力を含む。<1>情報へのアクセス……<2>情報の評価……<3>情報の活用…」

②「図書館利用教育」

「図書館の利用者および潜在利用者の集団を対象に計画, 実施される, 組織的な教育活動。…近年では, 情報環境の変化などを背景に教育内容が拡大, 多様化し, 図書館を含むさまざまな情報(源)の効果的利用に必要な知識が技能(情報リテラシー)の習得を目指す種々の活動を包括する用語と解される。」

(2) 図書館利用教育ガイドライン (日本図書館協会図書館利用教育委員会)

①図書館利用教育の定義

「すべての利用者が自立して図書館を含む情報環境を効果的・効率的に活用できるようにするために, 体系的・組織的に行われる教育である。」

②各館種版の策定

公共図書館版「図書館利用支援ガイドライン」: 1999年8月(理事会承認)

③目標・方法: 領域1 (印象づけ)

領域2 (サービス案内)

領域3 (情報活用法指導)

(3) 方法・手段の考え方

4. 【ミニワーク 1】

5. 学校図書館・大学図書館の事例から考える

(1) 【大学】高等教育のための情報リテラシー能力基準 (ACRL)

(2) 【大学】現代高等教育政策の文脈を解く

(3) 【大学】学生の生活システム

(4) 【学校】学校図書館の探究型学習

【講義2】公共図書館における情報リテラシー支援の可能性

1. 「図書館利用教育ガイドライン」の公共図書館版の歴史を紐解く

- (1) 「教育」に対する議論**
- (2) 情報リテラシー教育支援**
- (3) 現在の状況**

2. 「なぜ公共図書館で情報リテラシー支援が必要か」を探る

- (1) 文部科学省関連の資料から読み解く**
- (2) 「第2期教育振興基本計画」 中央教育審議会**
- (3) モスクワ宣言 (IFLA)**
- (4) 公共図書館における情報リテラシー支援の目的とは？**

4. 公共図書館の実践例

5. 図書館活用のストーリー

- (1) 図書館の位置づけ, 評価再考**
- (2) テーマ (主題) の選択・発見, 調査の視角**
- (3) 資料収集方法**
- (4) 情報の整理と評価**
- (5) 市民主体の調査活動へ**

【グループワークの手引き】ともに考え、ともに拓き、ともに創る実践

1. 情報リテラシー支援として、「何」を「どのように」実行できるか？

- (1) グループワークの大まかな流れ（目次）
- (2) 【グループワーク①】視点を切り替える
- (3) 【グループワーク②】テーマを洗い出す
- (4) 【グループワーク③】具体的な内容を考える
- (5) 【発表】
- (6) 【振り返り】「省察」、そして「実行」につなぐ……

【おわりに】

- (1) 思い出そう図書館の理念！
- (2) 公共図書館における情報リテラシー支援の可能性